

登録コード	HM121200	開講年度	2026			
授業題目	麻酔・循環学特論					担当教員 田中 聡 他
英文授業名	Anesthetics and Circulation					副担当 石田 高志・石田 公美子
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生 大学院生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能					麻酔薬や手術侵襲が循環動態に与える影響を理解し、状況に応じた循環管理法を説明できる。
(2)詳細/Detailed information	麻酔管理下における循環生理・病態生理を理解し、心機能・血行動態の変化を理論的に説明でき、適切な麻酔・循環管理戦略を立案できる。					
(3)授業の概要/Overview of course	麻酔関連薬剤の循環動態への影響を説明することができる。 循環作動薬が循環動態にどのように影響するか説明することができる。 手術操作（血管クランプ、出血、体外循環）による循環変動を説明できる。 周術期の循環変動に起因する合併症を説明できる。					
(4)授業計画/Course plan	1、 麻酔関連薬剤（吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、局所麻酔薬）および循環作動薬が循環に与える影響（第1回～第5回） 2、 手術操作（血管クランプ、出血、体外循環）が循環に及ぼす影響（第6回～第10回） 3、 周術期の循環変動に起因する合併症とその防止策（第11回～第15回）					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	授業毎の小テスト、レポートによる。 「小テストの評価基準」 授業で示した例題と同程度の問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。 「レポートの評価基準」 （1）問題の設定が適切であり、（2）その問題の背景を説明できており、（3）その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、（4）それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、（5）その上で自分の見解を適切に提示できている場合には、「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	事前学習：授業の終わりに次回までの予習課題を説明する。予習した内容はミニレポートとして講義の最初の10分間にまとめ、提出する。 事後学習：授業の始めに、前回の授業内容に関連する問題を提示するので、復習をして授業に臨む。 この授業の履修にあたっては、周術期医療の経験があることが望ましい。上記の日時に参加できない場合には、協議の上で具体的な時間割を決定する。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	質問は随時受け付ける。					
(8)授業の形式/Course format						